

Track 01: プロローグ

「あら、ここにいたのね」

「部屋にひとりで閉じこもって、何を真剣に読んでいるの?」

「あ、それ……今月のトラック&フィールドマガジン?」

「ひよ、表紙は恥ずかしいから見せないで?」

「少し取材に答えただけなのに、

まさか、雑誌の表紙に使われるなんて……」

「しかも、『美人すぎるアスリート』特集って、

学生の頃から変わらないこの見出し、何とかしてほしいわ」

「アスリートに容姿なんて関係ないのに……」

「……でも不思議ね」

「あなたと出逢うまで、

自分の容姿を気にしたことはなかったけれど……」

「最近は、鏡の前にいる時間が増えてる」

「あなたと一緒にいる時は、

少しでも綺麗でいたいって思うようになったの」

「年上の私と付き合ったことを後悔してほしくなくて……」

「周りの人が思っているほど、私は自信家じゃないのよ？」

「特に、あなたのことに關しては……」

「学生の頃から、あなたはモテていたし、最近だって、無理やり女の子にお酒を飲まされて、お持ち帰りされそうになったじゃない？」

「その雑誌の女性記者さんからも、一緒に走ってるかわいい男性の連絡先を教えてほしいって頼まれて……」

「しかもあなたには、自分が女の子に狙われてるっていう自覚がないでしょう？すぐ他人を信じてしまうし……」

「……でも、それが私の好きになったあなたなのよね」

「あなたは、どちらの私が好き？雑誌の表紙を飾っている、アスリートの『知花涼香』と……」

「あなたをかわいがるしか脳のない、ダメな女……」

「今は、どっちの私だかわかる？」

「……わからせてほしい？」

「ふふっ、冗談よ。」

「ごめんなさいね、久しぶりに会ったから、
ついイジワルしたくなって……」

「それより、私が留守の間どうしていたの？」

「……もう、言わなくてもわかるでしょう？」

「平気だった？ おちんちん、苦しくなかった？」

「ずっと心配していたの。」

男の人は、自分で性欲の処理をするのが普通だって聞いて……」

「私のために我慢しなくていいのよ？」

「したくなったら、自分の手でしてもらっても……」

「あなたが我慢してくれるのは嬉しいけれど、
そんな時に、女の子にお持ち帰りされたりしたら、
私……どうにかなくなってしまいそうなもの……」

「……もう、あなたは女の怖さをわかってないから、
そうやって笑っていられるの」

「思い出してみて？」

「あなたに近付いてくる女の子たちのこと」

「みんな、スカートだって短いし、
胸元を強調した服装ばかりじゃない？」

「わざとらしく目の前で物を落として、
前屈みになる子とかいなかった？」

「話してる最中に、気安く腕とか肩を触ってくる子は？」

「もう、『いたいた』じゃなくて、
そういう子たちは、あなたを狙ってるのっ。
悪いことを考えてるのっ」

「そんなだから、私は……
あなたを、ひとりにしておけなくなるのよ？」

「このままだと、

私、あなたをお部屋に閉じ込めなくなっちゃう」

「他の女の子たちから遠ざけなくなっちゃう……」

「なんだかずるいわ。

私ばかり、ヤキモチを妬いてるみたいで……」

「あなたの『好き』と私の『好き』……
きちんと釣り合ってる？」

「あなたは、私のことをお部屋に閉じ込めておきたいって思ったり……する？」

「くす……今日は、あなたを困らせることばかり言ってしまうてるわね」

「お部屋に閉じ込めるなんて、そんな監禁みたいなこと——」

「……監禁？」

「……………」

「あ……ち、違うのっ。」

あなたを監禁したいとか思っているわけでは……なくて……」

「ただ、前に姉さんが仕送りで、おかしな物を送ってきたの……」

「もしあなたが浮気をしたら、

これでつないでおきなさいって……」

「……その……手錠、なのだけれど」

「……………」

「あなたは……どう思う？」

カノジヨに、こういうのでつながれるの」

「もちろん、あなたが浮気をしていないのは、わかっているわ」

「でも……でもね、私っ……」

「ごめんなさいっ。」

私、やっぱりあなたをお部屋から出したくないっ。
他の女の子と会わせたくないっ……」

「ずっと、そばに置いておきたいの。片時も離れたくないの」

「……このまま、お部屋に監禁しちゃ、だめ？」

「心だけじゃなくて、身体もつないでおきたい」

「あなたと私の『好き』が……同じになるまで……」